



公立阿伎留医療センター

No 105 令和4年5月

地域医療連携センターニュース

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

発行 地域医療連携センター

電話 042-558-0321(代表)

FAX 042-550-5190(直通)

赴任のご挨拶

院長 根東 義明

桜花の候、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より公立阿伎留医療センターへのご支援を頂いておりますことを改めて御礼申し上げます。

このたび私こと、荒川泰行企業長兼院長のご退任に伴い、4月1日付けで構成市町村長（あきる野市、日の出町、檜原村）より阿伎留病院企業団企業長を拝命し、合わせて院長も務めることとなりました。

私は東北大学医学部卒業後、小児科医としての道を歩みながら、生理学、腎臓専門医、大学病院（東北大学）経営・情報担当副病院長、日本医療情報学会監事、医療管理学教育・研究者、大学医学部執行部（東北大学および日本大学）などでの経験を通して、医療者としての研鑽を重ねてまいりました。今回、期せずして西多摩医療圏において地域医療に従事させていたく機会を得ましたことは、この上なく光栄なことと存じます。

西多摩医療圏は、東京都の中でも最も面積の広い二次医療圏であり、特に秋川流域に位置する公立阿伎留医療センターは、あきる野市、日の出町、檜原村の3市町村を母体としております。医療と介護は地域包括ケアシステムの中では一体のものであり、公立阿伎留医療センターもその一員として、秋川流域の医療施設・介護サービス事業所の皆さんとともに、地域住民の皆さまの健康を守るために、これまで以上に努力を続けて行きたいと存じます。

少子高齢化は現在全国で進んでおり、来る2025年にはすでに65歳以上の国民ひとりを65歳未満の国民1.8人が支え、2060年には1.2人にまでその負担が大きくなると考えられています。こうした中で、医療と介護がシームレスにその役割を發揮し、地域の要請に応えていく仕組みをしっかりと構築することは大変重要です。

私どもは、この大きな課題に少しでも解決策を見出すため、これからいくつかの大きな取り組みを進めて参ります。

まず、第一に進めなければならないのは持続可能な病院運営のための医療の質と安全の確保や、経営改善の努力です。このためには、これまで培ってきた地域連携のための取り組みの一層の充実が必要です。コロナ禍においても、それ以前と同様に一般医療の充実を模索しておりますが、ポストコロナ時代を準備し、公立阿伎留医療センターのこれからの方針をしっかりと検討していくことは、秋川流域の唯一の公立病院であり、中核病院としての重大な責務と考えております。

そして、第二に取り組まなければならない大きな課題は、院内と地域の情報化であると考えます。

この間、デジタルトランスフォーメーション（DX）という用語をよく見かけるようになりました。DXは単なる情報通信技術（ICT）を意味する用語ではありません。電子情報技術を上手に活用することにより、これまでの自分たちの生活様式を見直し、より無駄がなく、地域に貢献できる医療人を育成し、質の高い医療の実現を目指すことを意味します。診療情報だけでなく、それを支える様々な情報に目をむけ、適切なペーパーレス化により、本当に必要とされる医療を実現する取り組みが求められています。

私どもは、本分であります自治体病院の役割を果たすことと共にこれから時代に必要とされるDXへの取り組みを通じて、よりよい医療を地域の皆さんにご提供できるよう、ICTの力をかり、地域の医療施設・介護サービス事業所の皆さんと積極的に協力していきたいと考えています。

つきましては、微力ながらも、これまでの医療分野における診療、研究、教育、情報・経営・運営の経験をしっかりと生かし、全職員の方々と一丸となって力を合わせ、地域の医療・保健の充実のために力を尽くしたい所存です。

皆様方におかれましては、これまで同様に、公立阿伎留医療センターへの暖かいご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

赴任のご挨拶

乳腺外科 鈴木 佑奈

本年度より公立阿伎留医療センターに乳腺外科に赴任いたしました鈴木佑奈と申します。

平成28年に日本大学医学部を卒業し、同大学の乳腺内分泌外科学講座に入局しました。途中、大学院で基礎研究を行い、その後臨床に戻り診療を続けています。地域の乳がん診療に貢献できるように日々努めて参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

乳がんの罹患率は年々増加傾向にあり、現在は年間6万人以上が乳がんの診断を受けています。しかしながら、早期に適切な治療を行うことで完治が見込めるがんであり、ステージIの乳がんの10年生存率は90%以上になります。乳がん検診で要精密検査となつた方、ご自身で症状を自覚された方には、不安な気持ちでいらっしゃると思いますが、当院外来を受診していただければ検査から治療まで迅速に対応いたします。ぜひご相談ください。

乳がんの治療に関しては、ここ10年間においては目覚ましい進歩が見られ、手術療法、薬物療法、放射線療法を組み合わせた集学的治療によって治療成績も向上しています。特に薬物療法においては、ホルモン療法、化学療法に加えて分子標的薬が適応になったことで、乳がんのサブタイプごとに細分化された治療選択が主流になってきました。例えば、周術期の薬物療法は術後の再発を抑える目的で行われますが、乳がんのタイプによっては補助化学療法による上乗せ効果が高いケースがあることがわかつてきました。

一方で、化学療法が非常に効果的な乳がんのタイプも存在し、この場合は術前・術後に適切な化学療法を行うことで予後の改善が期待できます。

このように、患者さん一人ひとりの背景やリスクを評価し、過不足のない最適な治療を行うことが重要と考えています。また、再発・転移乳がんにおいても、サブタイプに合わせた分子標的薬の併用が適応になり、社会生活と治療を両立させながら、外来での通院治療を継続できる患者様も増えてきています。乳がんと診断された患者様は、30代から50代の働き盛りや子育て世代、ご高齢の方からAYA世代まで様々なライフステージを歩んでおられます。それだけに、一人ひとりの多様なニーズに対応しながら最適な治療を選択し、患者さんご自身にも納得していただける様に努めて参ります。

長い治療期間を前向きに乗り越えるために、最も身近な主治医として努めてまいりますので今度ともよろしくお願ひいたします。

【乳腺外科外来担当医表】

	月	火	水	木	金
午前	後藤 洋伯	鈴木 佑奈	鈴木 佑奈	後藤 洋伯	鈴木 佑奈
午後 14 時～15 時	後藤 洋伯			後藤 洋伯	鈴木 佑奈

※乳腺外科は紹介状お持ちの方であれば、患者さんからのお電話で初診予約を承ります。

常勤医師の入退職について（令和4年4月分）

常勤医師の入退職については、以下の通りです。

入職	
診療科・役職	氏名
企業長・院長	根東 義明
消化器内科	青木 央 ひろし
外科	水野 歩実
皮膚科	小笠原 渚
乳腺外科	鈴木 佑奈
臨床研修医	信夫 萌花
臨床研修医	笠原 恵那
臨床研修医	桐ヶ谷 泉

退職	
診療科・役職	氏名
企業長・院長	荒川 泰行
循環器内科長	片山 直之
循環器内科長	岡部 龍太
緩和治療科長	鎌迫 陽
耳鼻咽喉科医長	堀越 友美
消化器内科	武石 彩
消化器内科	渋谷 真史
外 科	駒橋 充
皮 膚 科	檜崎 緑
臨床研修医	一川 良太
臨床研修医	安倍 恵太
臨床研修医(歯科)	才川 皓平

地域医療連携センターからのお知らせ

- ① 消化器内科の診察について、常勤医師の減少により、**大腸ポリープ切除については、3ヶ月以上の待機期間となりますので、予めご了承ください。**
また、診療時間内であっても、入院前提のご紹介なども検査やベッド状況によりお受入できないこともありますので、必ず事前にご相談ください。
地域の先生方にはご不便をおかけして申し訳ありませんが、ご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。
- ② 呼吸器内科の診察について、現在 COVID-19 の患者対応等により、予約外で来院された場合で緊急性がない場合は総合内科の診察または改めて予約の取り直しになります。
また、胸部 X 線異常陰影については、
呼吸器外科・三浦弘之医師（日本呼吸器学会指導医・専門医） ⇒月曜日、木曜日
総合内科・佐々木真一医師（同専門医） ⇒ 水曜日
の診療日でも対応可能ですので、併せてご紹介ください。
- ③ 地域医療連携センターでは昨年に引き続き医療相談機能の充実化をひとつの目標と掲げ、4月より**社会福祉士（MSW）を2名増員し、6名（再任用2名含む）体制となりました。**
また外来患者さんからのご相談にも対応できるよう今年度から1名を相談窓口専従とし、介護保険制度の説明、訪問診療、訪問看護のご紹介の相談等も積極的に承っております。

AKINET（秋川流域感染対策ネットワーク）について

当医療センターでは秋川流域の療養型病院、介護老人保健施設・福祉施設、訪問看護ステーションの皆様と感染症に関する知識向上や連携強化のため、AKINET（秋川流域感染対策ネットワーク）を設置し、研修会の開催や施設訪問を行っており、特に一昨年からは新型コロナウイルス感染症に関連した情報共有を強化して参りました。

現在では40以上の施設がご登録され、また構成市町村（あきる野市、日の出町、檜原村）の担当課にもご参加いただいております。

令和4年4月19日（火）に令和4年度第1回のAKINET運営会議のWEB会議を開催し、当番病院のあきる台病院、日の出ヶ丘病院、当院のほかあきる野市健康課、日の出町いきいき健康課にもご参加いただきました。（大久野病院は都合により欠席）

当日はあきる台病院の西木俊一先生に開会のご挨拶をいただき、その後あきる野市、日の出町の新型コロナウイルス感染状況とワクチン接種状況、各病院の感染状況について報告しました。

また、当院に寄せられた主な相談内容を感染管理認定看護師の長谷川よりご報告いたしました。今年度も引き続きお互いの病院のラウンド、相互評価を含めた連携強化に努めてまいりたいと思います。